



校長会



No.33

三重県小中学校長会 広報 第33号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋 2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail mie-kotyokai@galaxy.ocn.ne.jp
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



気持ちの良いあいさつ

「おはようございます。」元氣な声が生徒玄関に響き、明るく笑顔で登校する生徒たち、開校から八年目、学校はノーチャイムで活動できる生徒が育っています。来客者からは、「きれいで静かな学校ですね。そして、気持ちの良いあいさつをしてくれました。」とお褒めの言葉をいただきます。あ

りがたいことだと思ひながら、本校職員の生徒を育てる姿勢に感謝しています。

支え合える「チーム南勢」

本校職員の合い言葉は、「チーム南勢」。この言葉のもと、一致団結して何事にも全員で取り組む体制ができています。本校の強みです。職員室は、昔ながらの教育談義があったり、弱音を吐き合ったり、時には趣味の話に花が咲いたりして風通しの良い職場ですが、当然ながら、さまざまな問題が毎日のように起こっています。しかし、生徒に寄り添う姿勢が徹底していることもあり、早期

私の学校づくり



『チーム南勢』に感謝

南伊勢町立南勢中学校
校長 片山 嘉人

発見・早期対応ができています。『チーム南勢』は、それぞれの校務にリーダーシップを発揮してくれる教職員のもと、互いに信頼関係を築き、職員が丸となった対応ができる組織だと自負しています。

基盤となる地域教育力

また、地域とのかかわりも強く、学校評価においては「生徒は南勢中を誇りに思う八十三％保護者は満足できる学校である八十四％」の評価を頂いています。特に、諸行事においては、保護者の出席率が九十パーセント以上あり、PTA活動にもたいへん協力的で、地域の教育力の高さがうかがえます。

このような学校で勤務できることの喜びを感じながら、今後とも地域に根ざした教育に取り組み、全職員・保護者・地域・関係機関等との協力体制をさらに密にしておいて、町長が主張される「南伊勢町の宝である子どもたち」を育てていきたいと思っています。

今日の課題の克服に向けて

家庭・地域、保幼小中が連携して、子どもも教師も育てる

松阪市立豊田小学校

校長 中川 雅 文



本校の児童数は百四十名で、子どもたちは純朴で明るい。昔からの地域で祖父母との同居も多いが、子どもたちが家庭や地域から学ぶ機会は減りつつある。職員数は十六名、担任の半数は教職経験三年以下の若い教師である。こうした状況にあつて、児童期の経験を少しでも豊かなものにし、教師も学ぶ機会を増やし、子どもたちも教師も育つていけるように、家庭・地域、さらには保幼小中が連携した取組を進めている。

【家庭・地域の力を借りて】
生活科や総合的な学習の時間を

はじめ、全ての教育活動において、保護者や地域の方々にゲストティーチャーに招いて学ぶことは、子どもたちに興味や関心を持たせると共に、異世代の様々な立場の方々と交流する大切な機会ととらえ、積極的に実施している。（大規模農業経営者から米作りを学ぶ、お年寄りの戦争体験から学ぶ、外国人保護者から英語や外国の料理を学ぶ等）こうした活動は、教師の知識や技能を高めることにもなり、特に若い教師にとつては貴重な経験の場になっている。さらに、お話の会ボランティアによる読み聞かせやストーリーテリング、スクールガードボランティアによる登下校の見守り等、地域の方々の自主的な活動が、子どもたちの楽しい生活・安全な生活を支えてくださっている。また、教師が子どもたちの指導に集中できるように、学校行事等への協力を、必要に応じて保護者をお願いしている。（交通安全教室の補助、校内持久走大会試走の監視、学校一斉公開日の受付等）

【学校からの協力と発信】

一方的に家庭や地域にお願いするだけでなく、学校としても家庭・地域への協力を積極的にを行っている。（公民館活動や地区まちづくり協議会行事への参加者募集や会場提供、準備・片付けの手伝い、児童作品の出品等）さらに、地域の方々とのつながりを築いてほしいという願いから、職員に対して、文化祭や夏祭り等、地域の主な行事への参加を勧めている。実際、職員も極力参加しており、学校では見られない子どもの姿を知ったり地域の情報を得たりするよい機会になっている。

また、保護者のみならず地域の方々にも学校をより理解していただくために、学校だよりを地域に回覧すると共に、参観の機会を増やすように心がけている。（中学校区学校一斉公開日の設定、人権集会、集会活動の案内、PTA親子教室の開催等）

【保幼小中の連携】

本校は、保育園・幼稚園が隣接しており、ふだんから交流する機会を設けている。このことは、児童の小さい子を思いやる気持ちを育てたり、園児の小学校入学への

不安を和らげたりするだけでなく、小一プロブレムの解消にもつながるものと思われる。（縦割り班遊びへの園児の参加、幼稚園収穫祭への児童の参加、保幼小合同の人権劇鑑賞会や避難訓練等）

さらに、嬉野中学校区の幼小中では、教師間で異校種間交流や他校の校内授業研究への参加を日常的に行っている。異校種間交流は、嬉野へ初めて勤務した教師が他の園や校で半日学ぶもので、本年度、幼稚園や中学校で保育や授業を経験させていただいた本校の教師は、幼稚園のきめ細かな指導や中学校での授業の難しさ等を学んできている。また、他校の授業研究への参加も、指導力向上への大切な機会になっており、保幼小中の連携で教師も育っている。



誰もが輝く学校を目指して

大台町立日進小学校

校長 猿 木 茂 久



本校は、多気郡大台町の山村部の茶畑に囲まれた全校児童九十四名の小規模校である。

児童は素朴で素直であり、保護者や地域は教育に関心が高く協力的である。職員は熱心に児童に関わり、町は教育の充実や施設設備の改善を厚く支援してくれる。

こうした恵まれた地域の中で、「温かくみんなが安心できる学校」「学ぶ楽しさ、わかる喜びにあふれる学校」を目指し、様々な教育課題に取り組んでいる。

1 児童の安全確保

(1)不審者・交通事故に対して心配される事案が年に数回発生するが、保育園・小中学校・保護者・安全ボランティア・子ども110番の家・教育委員会・警察の連携で大事には至っていない。

また、交通安全面でも毎日サ

ポートを受けている。私は毎朝いづれかの地区を廻り、最後は校門前で児童を迎えることを日課としてきた。このことは、地域の声や子ども一人ひとりの様子が把握でき、大きな収穫となっている。

(2)自然災害に対して

①台風・大雨に関する対応

年三回の避難訓練を行うとともに、年一、二回は、大雨・台風接近等で保護者に緊急メールを発信し、児童の引き渡しをしている。児童をいかに安全且つスムーズに渡すか、マニュアルを職員と何度も相談しながら改善を図った。

②地震に関する対応

主な場所に転倒防止金具や、ガラス飛散防止フィルムを施した。しかし、大規模地震の対応にはまだまだ多くの課題がある。

○「地域の避難場所」としての設備が不十分。

補正予算で、年度内に発電機投光機・簡易トイレ等が整備される予定である。

○総合的な「合同訓練」が必要。職員・保護者・地域住民の合同訓練を実現したい。

2 基礎学力の向上

本校は学年によって基礎学力の定着に課題がある。

○全教員が授業を公開し、授業の

工夫・改善に努力している。
○学習支援員を充実させ、児童のつまづきを見抜き、具体的な支援を行っている。

○本年度「家庭学習のマニュアル」を作成し、効果的な学習の仕方や自ら学ぶ習慣を身につけさせるように取り組み始めた。

3 仲間づくり

学年縦割りの「なかよし班」を組織し、様々な活動を通じて互いに理解し合い、繋がる活動にしている。また、小中学校の連携を図り、人権を大切に、学校・学級で起きた問題に対し、本音で話し合って解決できる事例が増えた。

4 組織として協働する意識

「学級担任のみが全責任を背負う」という意識を捨て、「組織として全職員が協力して取り組む」という意識を徹底的に強化した。最近では、どのような問題が起きても、部会や職員全体で関わり、解決できる事例が増えてきた。

私は、この三月、六年生と共に卒業になる。この恵まれた地域で最後を迎えられたことをとても幸せに思う。これからも、子どもたちと職員が共に学び、成長し、「誰もが輝く学校」になることを見守っていききたい。

学力定着に向けての

取組と現状

桑名市立長島中学校

校長 倉橋 秀 治



長島町は、愛知県との境にある輪中の町である。八年前、桑名市と合併し桑名市長島町になった。長島駅前には名古屋に近いということもあり高層マンションが並ぶ。長島中学校は、特別支援学級一学級を含む十五学級の中規模校である。

学校教育における課題は山積している。でも、昔も今も多くの課題は「学力の定着」により解決できると考えている。

生徒一人ひとりの学力の定着のためにまずは授業である。

平成二十三年度、二十四年度と桑名市教育研究推進校委託長島地区小中連携事業を長島町内の三小中学校と受けた。「授業等で自分の思いや考えをノート等に書くことができる。」「難しいと思ってあ

きらめず最後まで考えることができる。」「聞く人のことを考えて自分の思いや考えを言うことができる。」「友達の考えを聴いて、自分の考えが深まったり、新しい考えがうかんたりする。」等、八つの質問項目のアンケートの結果、「小中連携の活動を通して、学び合い、つながり合う子どもたちの育成をめざして」という研究課題を設定した。

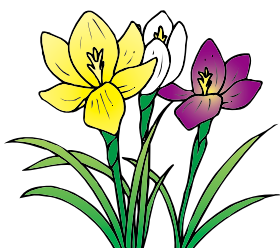
子どもたちが、「自分の思いを持つ」「自分の思いを出す」「なかまの思いを受けとめる」それぞれの場面を授業の中につくるため、個人で考える、次に小集団で考える、再度、個人で考える。そのような授業展開をし、研究課題に少しでも近づこうとした。本校は、道德の授業でこの取組を行ったが、教科によっては、小集団を活用することにより、教育効果が高まることが分かった。

放課後は教科部会をなかなか設定することができないので、本校では、時間割に教科部会のコマを設け、授業時間中に同じ教科の職員が話し合えるようにしている。職員の授業力向上を目標にして、一年間に一人一回は教科内提案授業をし、次回の教科部会で話し合いを持つようにしている。

学力の定着に向け、取り組みを行ってはいるが、なかなか成果として表れないのが現状である。

長島町は、個々の家庭の生活水準は高く、学校教育に対して関心が強い。平日に四回、日曜日に一回、年間五回の学校公開を行っているが、たくさんの方の保護者や地域の方に参観いただく。「授業がわかりにくい。」「騒がしい。」「寝ている生徒がいるのに先生は指導をしない。」など、参観後の感想や意見には厳しいものが多い。

教材研究の時間の確保の問題もあるが、職員の意欲の問題にかかっている部分が多い。「職員が楽しく学校に来られる。」そんな学校にすることが、学力定着の第一歩かもしれない。



随 想

『愚公、山を移す』

伊賀市立神戸小学校

校長 花 垣 淳 美



小見出しは、初任の鳥羽市立神島中学校で校長が生徒の前で紹介した一句である。何故かこの句が教師駆け出し時期の私には印象深かった。私の新採当時は、人材確保法により教師の給与・福利面が厚くなり、安価な家賃の教員住宅で過ごせる独身生活は快適だった。

その神島中で二十五名の生徒を三年間担任し卒業を見届けてから我が母校に転勤した。初任四年間で多くのことを学んだおかげで、地元という過度の期待にも押しつ

ぶされず、常に熱い思いで元気な生徒と格闘でき、教科指導・部活動・生徒指導等に精励できた。

やがて、年を重ね経験を重ねた後に同和教育推進を担当し、これまで培ったへき地教育の理念に同和教育の視点をプラスし、日を追う毎に自分なりの教育信念を確かなものにしていった。特に中途半端な姿勢を払拭し、自分自身を見据え、子どもと正面から向き合い粘り強く寄り添え、考え方や指導姿勢に自信をもつことができた。

そして、再び教育現場に赴くや不登校や荒れる子どもたちに直面し、七十年代とは異なる子どもたちの様相に、戸惑い慌てふためきながらも何とか職員有志と力を合わせ必死に子どもたちに関わり、卒業を見送ってきた。

その後、教頭職についても、子どもと相對峙する機会に恵まれ、教諭のごとく指導姿勢を顧みながら、緊張感の漲る三年間を過ごした。

さらに、校長になっても職員との舵取りをしながら、子どもや教育課題のことで保護者に向き合いながら荒波を越えてきた。決して順風満帆ではなく厳し過ぎて心折れそうになることもあったが、いつも時間が解決し

てくれた感がある。

いつも見守られ、大切にされているというメッセージを一人でも多くの子どもたちに伝えたい。これは、里親として二人の里子を我が家に迎え入れ寝食を共にして、子どもたちから改めて教えられた。

自分の教職生活を振り返り思いつくまま綴ってきたが、退職後も具体的な動きを通して教育や福祉に関わり暮らしていきたい。

「どんな困難なことでも辛抱強く努力すれば、いつか必ず成し遂げることができる」(小見出し記)



現鳥羽市立神島中学校

地域に見守られて

伊勢市立小俣中学校

校長 中 村 信 裕



過疎化・少子化が進む中で学校の統廃合が行われ、地域の人たちに親しまれてきた学校が姿を消していくというのは実に寂しいものです。

校長になって最初に赴任した度会郡南島町立東小中学校は、リアス式の美しい海岸線と三方を山々に囲まれた児童数四十余名の極小規模校でした。昭和三十年代には百名近い児童が在籍していました。昭和六十年頃から急激に減少し四十名前後で推移していました。

この地域の人たちの東小中学校へ寄せる思いは非常に強いものがありました。学校行事の度ごとに保護者は勿論ですが、一般の方々まで学校に足を運んでくれることもありました。子どもたちへの熱い眼差しを感じていました。

放課後のグラウンドでは、漁の仕事を終えた父親が子どもたちのソフトボールに付き合ってた地域の指導者と共に活動していたことも思い出されます。

また、毎年行われる「大敷網体験」では、早朝から船に乗せてもらい、冬の海で自分の持ち場を守る、漁師さんの息の合った仕事ぶりをらせていただきました。また、大自然の醍醐味と魅力、海に生きる人々の喜びや厳しさを肌で感じた時でした。地域の祭りでも、体育祭でも子どもが学校に在籍しているかいないかに関係なく、長年にわたって地域の人たちに温かく見守られ支援されてきた、本当に地域に愛され続けた学校でした。

しかし、少子化の中で町内小学校三校が統合されることになり、赴任して三年目、ついに東小中学校最後の校長として平成十九年三月閉校式を迎えることになってしまいました。数々の思い出を刻んできた百三十一年の歴史に幕を閉じたのでした。最後の日である三月三十一日夕刻、学校の玄関の鍵を閉める瞬間を見届けようと、多くの人たちが集まってきていた様子は今でも私の脳裏から消えていません。

特別寄稿

『先生方、いつもありがとうございます』

三重県PTA連合会

会長 安藤 大作



先生方、平素は子どもたちが大変お世話になっております。

心から感謝申し上げます。

わたしたちPTAといっても、具体的な学校行事に積極的に関わらせていただく各小中学校の単位PTA、またより良い単位PTA

活動を目指して各単位PTAの意見交換をし、時に都市として行事を行う各都市PTA連合会（連絡協議会）、そして三重県内十八都市PTA連合（連絡協議会）の相互情報交換および県単位を主とする各教育関係団体、日本PTA全国協議会との連携などに努める三重県PTA連合会とあります。

子どもたちのみならず、このようなPTA活動においても、先生

方には深いご理解とご協力をいただきまして、本当に感謝いたしております。

さてPTAは、子どもたちの笑顔のために学校や地域との連携を図ることを主眼の一つとしています。そのプロセスの中で学校や地域に見ることもあろうかと思えます。しかし、PTAは、その多くが子どもたちの保護者で組織されているわけですから、まず自分たちの半径三メートル、つまり日常の家庭教育を調えることもたいへん重要であると思っています。

保護者だから出来ることをしっかりとやる、学校だから出来ることをしっかりとやる、自分たちの立場らしく出来ることをしっかりとやる上で、お互いの立場を重んじて協力することが大前提であり、美しい姿であるように思います。連携とはそのような暗黙の信頼関係の上に成り立つものであり、連携の名のもとに過度な要求や依存に陥らないように自らを律しなが

ら、また全体を考えてバランスのとれた活動をしていくことが大切であると考えます。

今年度の三重県PTA連合会のスローガンは「家族を調えよう」として、学校、地域と連携しようです。まず自分たちの半径三メートルをきちんと調える。家庭、学校、それぞれがまずそれを調えようとして、その上でお互いの立場に敬意を表しながら協力連携をしていく。このプロセスは重要かつ大前提であることは言うまでもありません。

複雑な社会、多様化する価値観が混在する現代の社会だからこそ、単純明快な本質を見つめる目が大切になってくると思われれます。

その本質とは、自分の半径三メートルを調えることのように思えます。お互いが助け合い、力を合わせて、様々な局面を乗り越えて、未来を作っていくかなければならない時代のように思います。それだからこそ大前提の本質の重要性は増すように思います。

先生方に敬意を表しながら、自分たちの組織の半径三メートルを調えつつ、精進してまいります。今後とも変わらぬご理解ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、三重県小中学校長会のますますのご発展とご活躍を祈念申し上げます。

事務局だより

25 年度 年間行事予定

総 会 等	退職校長感謝の集い 4/13 総会 4/25 都市会長会議 5/14 2/13	全 連 小	総会 5/24 三重大会 10/17・18
代 表 者 会	4/18 5/21 6/18 9/12 11/19 1/16 2/20	全 日 中	総会 5/22・23 福井大会 10/24・25
専 門 委 員 会	学 校 経 営 5/21 6/18 7/18 8/23 9/17 11/19 進 路 指 導 5/7 6/6 7/9 9/19 10/29 11/12 生 徒 指 導 5/21 6/18 8/6 10/31 11/19 広 報 4/30 6/18 9/12 11/19 1/28 特 別 5/21 6/18 9/12 11/19	東 陸 連 小	三重大会 10/17・18
少 学 校 協 会	研 究 大 会 全連小三重大会 10/17・18 代 表 者 会 4/18 9/12 1/16 2/20	東 陸 中	福井大会 10/24・25
中 学 校 部 会	研 究 大 会 8/20 代 表 者 会 4/18 9/12 1/16 2/20 研 究 委 員 会 5/28 6/20 10/3 11/21		
全 連 小 三 重 大 会	実 行 委 員 会 5/14 8/8 10/8 事 務 局 会 4/16 6/13 7/11 9/10 4 部 会 各部会別開催 9 委 員 会 各委員会別開催		
東 陸 中 三 重 大 会	実 行 委 員 会 5/9 7/4 8/1 11/14 2/25 事 務 局 会 6/11 9/5 1/9 6 部 会 各部会別開催		

★お願い

- (1)平成 25 年度年間行事予定を考慮し、各種会議のご計画をいただきますようお願いいたします。
 - (2)現理事さんを通じ、下記の提出物をお願いいたします。ご協力ください。(締切日)
 - ①都市役員・県委員等の名前報告 (4/ 5)
 - ②総会代議員出席者名簿 (4/12)
 - ③三重県小中学校長年齢別表 (4/18)
 - ④日本教育会 (5/10)
- ※提出については、新理事さんでよろしくお願いします。

私の薦める一冊

戦争から浮かび上がる命の尊さ・愛

「永遠の0」



津市立村主小学校
校長 藤原法子

たまには読書でもと立ち寄った書店で見つけた「永遠の0」。特攻隊員として死んでいった男の生き様を描きベストセラーとなった本書に惹かれ手に取った。

「0」とは零戦のこと。終戦から六十年目、佐伯健太郎は、フリーライターの姉慶子と共に、零戦パイロットであった祖父（久蔵）の生涯を追うことになる。当時の戦友たちに話を聞いていくという形で話は進んでいくのだが、零戦パイロットのイメージとは裏腹に、祖父は「臆病者」と評される。国の為に命を投げ出すことが美徳とされる時代において、生きて還る娘に会うという妻との約束のため、何よりも命を大切にしたいというのだ。

うとする久蔵。決して勇敢ではなかったが、優しく高潔な人物像が徐々に浮かび上がり、その凜とした生き様に心打たれ、家族に対する愛に涙がこぼれてしまった。

しかし、そこまで生きることにくどわった久蔵が、なぜ特攻に行くことになったのか……。そこからつながるクライマックスへは、実際に読んで頂きたい。

また、フィクションでありながら史実に基づいて書かれているため、戦史や航空隊について学ぶこともできる。戦争を知らない世代に戦争を知ってもらうきっかけとしても優れた作品であるように思う。

本年映画化も決定しているが、第三者目線で語られることで多角的に久蔵という人物像が浮かび上がる文章の巧みさも面白さの一つであるので、本を手にしていただ

けたら幸いだ。

命が大切であるということ、愛する人のために生きるということ。当たり前のように思えることを実現できなかった時代、日本の

本部役員だより

一年を振り返って思うこと



三重県小中学校長会
小学校部会長 稲垣 隆

平成二十三年三月に起きた東日本大震災や九月に紀伊半島南部を襲った台風十二号の教訓から、私たちは、改めて自然の猛威を知り、安全で安心な学校づくりに向けた取組の必要性を痛感しました。また、復旧・復興が進まない東日本大震災の被災地の学校に対しては、支援が必要であることを再確認し、校長会として、支援活動にも取り組みました。その一方で、

新学習指導要領が完全実施された学校には、自主性や自立性を基盤に、豊かな心や健やかな身体を育み、確かな学力の向上を目指す等生きる力の育成が求められてきて

ために、家族のために、と心の底で恐怖と懸命に戦い、死んでいった若者達。改めて生きる喜びと素晴らしき、平和な今の世の中に感謝を感じずにはいられない。

います。

こうした教育の推進は、学校経営に責任を持つ校長の責務であり、その充実は、先見性や創造性をもって発揮される校長のリーダーシップによるところが大きいこと、また、そのために変革期にある教育の不易と流行を見極めつつ、関係機関や関係団体との連携、会員相互の連帯のもとで、小学校と中学校に共通する諸問題の解決に、校長会全体で取り組む必要があるとの認識に立ち、平成二十四年度の活動をスタートさせ、今日に至っています。

この間、校長会に組織された理

事会や役員会、専門委員会や部会等では、活動の活性化が図られ、着実に成果が積み上げられてきました。しかし、急激に変化する現代社会にあつて、人間関係は希薄化し、人間の尊厳が脅かされる深刻な「いじめ問題」も発生するなど、教育を取りまく状況は、ますます厳しさを増しています。

私たちは、こうした状況を踏まえ、今一度、校長会が果たすべき役割を問い直すとともに、小学校と中学校に共通する諸問題に、組織全体で立ち向かっていくことの必要性を感じました。さらには、平成二十五年度に「第六十五回全国連合小学校長会研究協議会三重大会」が、また、平成二十六年度に「第五十四回東海北陸中学校長研究協議会三重大会」が開催されることから、これらの大会に対しても、校長会の総力を結集し、取り組んでいかなければなりません。そして、今後も、真摯な研究と実践を積み重ね、本県教育の振興を図り、県民の信託に応えていきたいものです。

会員の皆様方には、この一年、三重県小中学校長会の諸活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。皆様方、心から感謝を申し上げます。

あの時、あの人



懐かしき水郷の町

名張市立つつしが丘小学校

校長 吉村 和仁

昨年末、地元の津市へ帰った職員同士の結婚式に招かれた。式を挙げたのは、昨年度まで私が勤務している小学校で新規採用として教員のスタートを切った二人である。その幸せな姿をみながら、二人にとって初めての職場で何を学んでくれたのかなと思った。そして、自分の初任の学校のことを懐かしく思い出していた。

私が赴任したのは水郷の町、長島町である。三年を受け持ったが三学級の担任は、新採二年目の男性教員、担任は初めての男性講師、そして私という今では考えられない組み合わせであった。教務をされている年配のG先生が、たよりない三年をいつも気にかけて相談に乗ってくれたが、「成績をつけるのは手伝ってあげられない

なかった。その私の弁当を当然のように作ってくれた。でも、普段は「校長先生がざら板を直してるよ。あんたも行って手伝ってきなさい」とよく怒られた。私の送別会で、涙をながしてくれたその顔を忘れられない。その他、個性的な先生方がたくさんいた。みんな何か持っていた。そこで学んだことはやっぱり大きかった。

休みには子どもと釣りをし、理科の実験では、子どもは何匹もふなを釣って持ってきた。まだ河口堰ができていない、のどかな水郷の土地がなつかしい。



『あの出会いが、今の私を・・・』



朝日町立朝日中学校

校長 岡山 泰三

二十二歳、四年間学んだ昆虫の研究を深めるために、大学院生となった。そして、アルバイト気分で、東京都内のある私立中学校で理科の非常勤講師を始めた。

とりあえず授業のため、自分の研究の合間に、教材研究・実験準備・板書計画のノートを作り、週三日計八時間の二、三年生の理科第二分野の授業らしきものを始めた。

公立中学校で校内暴力が頻発している頃にも関わらず、高校から

大学とエスカレーター式に進学できる私立の生徒たちは、のんびりと落ち着いた学校生活を送っていたし、先生たちにもあくせくした雰囲気はなかった。私は、研究に行き詰まりを感じていた頃で「教師生活ものんきでいいな」と、東京都立学校教員採用試験の出願をためしにしてみた。

その頃ある生徒から、「都立高校に進学して、国立大学で勉強したい。理科の勉強を教えて欲しい。」と相談を受けた。理科の教

科書も、第一分野の内容も知らない私は「なるべく関わりたくない」という思いで、「家の人も知っているの？塾へ行けばいいじゃん。」と言った。本人は「親も了解のうえ」と答え、保護者からも「よろしくお願いします。」という電話まであった。

「なぜ？自分？正規の理科の先生がいるのに・・・」と思いながらも、受験勉強は始まった。「やる以上は、合格させたい」という思いで、研究そっちのけで、私自身も問題集を手に入れ、二人三脚の受験勉強は進んでいった。

私の採用試験は意外にも合格、採用内定が出てしまった。その生徒も第一志望の都立高校に合格。自分の人生設計も、この生徒の人生設計も、そして生徒の家族の人生設計をも変えてしまった。

そして翌年、大学院を中退した私は、教師としての新たなスタートを切ってしまった。

あれから三十年、学校経営を進める立場となり、子どもたちの夢と可能性を広げられる教育の場づくりに取り組みたいと考えている。

しかし、あの「よろしくお願いします。」の一言がなければ・・・。

地区校長会だより

南牟婁郡小学校長会

問われている

三重県の最南端の南牟婁郡校長会は、御浜町と紀宝町の九校の小学校によって構成されています。コンパクトながら質で勝負できる校長会を目指しております。何の質を問うのかというと、学校経営の質を問うということです。そういう構えで日々励んでいます。

海岸線から、山間部までの学校です。昨年九月の水害で、南牟婁郡小学校にも多大な被害がありました。三重県各地の学校や、県教委まで沢山の方々が、ボランティアに入っていたき大変に助かりました。ありがとうございました。その上、各地からの義援金を頂戴いたしました。重ねて御礼申し上げます。

私達の地域は、復興するのに大変時間がかかると考えます。百年に一度の大きな水害でした。元にもどすのに何年かかるか想像がつかないほどのです。そのような状況の中で、未来を担う子ども達を育てる仕事は大変大きな意味を持つ



合い育ち合うことが大切です。

授業の質を改善

授業の質を改善
今この時代は、学びが量から質へ変化していく時代。そのような時代をとともに学び合いながら、学校が、地域と一体となって子どもを育てていくことが大切になってきました。今年、南牟婁郡の各学校では、公開研修会が昨年も増して学校で実践されている姿があります。皆さんも一度お越しください。

これから、校長会自らが学び合ひ育ち合うことが大切です。

鳥羽市小中学校長会

鳥羽市小中学校長会として出発

鳥羽市は、小中学校長会として、新たなスタートをきりました。

児童・生徒数の減少とそれに伴う統合等で、昨年度から小学校は九校、中学校は六校となりました。また、市内の児童・生徒数は、一五九二名です。

鳥羽市は、平成二十三年度から三年間の教育目標を定め、基本目標「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」をめざして、教育活動の取り組みをすすめています。

また、子ども像を「真珠のようにきらり輝く子ども」として、学校・家庭・地域のさらなる連携をすすめる、鳥羽市の将来を担う人材の育成を図っています。

定例の校長会では、市教委からの所管事項の他、当面する課題についての協議、県校長会報告や各担当からの報告、そして、情報交換等を行います。その後、小・中学校部会をして閉会します。

また、他団体からの案内もあり、毎回盛りだくさんになるので、従来は開始時刻が九時でしたが、現在は、八時三十分開始で開催して

います。

鳥羽市の場合は、いろいろな学校行事や教育活動がどうしても天候に左右される場合が多く、定期船の欠航により、晴れていても実施できない場合もあります。

また、児童数の減少による統合等の問題でも、離島をかかえるため、そう簡単に解決できない課題があります。

そういう条件の中で、鳥羽市小中学校長会は、会員相互の連携によって、共通する諸問題の解決に努め、鳥羽市教育の振興を図っています。



編集後記

日ごとに春らしくなってきました。各校では、卒業式の準備、今年度のまとめ、新年度体制の準備等にお忙しい毎日をお過ごしのことと思います。また、新学習指導要領が完全実施され、新たな課題解決に向けて、真摯に向き合い取り組まれてこられたことと思います。来年度、全国から約三千名の校長先生方をお迎えし「全連小三重大会」が開催されます。大会に向けて各部会では、着々と準備が進められているところです。また、平成二十六年に行われる「東陸中三重大会」に向けて、準備委員会が始動しています。今年も全校長先生方が、一致団結し充実発展の年になればと願っています。

さて、「校長会みえも年間三回の発行を無事に終えることができました。執筆していただいた皆様に心より感謝申し上げます。校長先生方の学校経営に学んだり、生き方に感動したり、楽しい記事にほっと心を和ませたりすることができました。来年度も会員相互の連帯感を図り、さらなる校長会組織の充実に役立つ会報となるよう、紙面の充実を図っていきたいと思います。引き続きご愛読いただきますようお願い申し上げます。